

サポセンニュースレター 2019年冬霞号



p2-4

## フードバンク

～“もったいない”を“ありがとう”に～

p5\_ サポセンの事業報告

p6\_ [チャレンジャー]  
MIRAIのしるし

p7\_ サポセン新規届出団体

p7\_ [スタッフコラム]  
進め、ケアの社会化

p8\_ [ある日のサポセン]  
被災地域へ支援がしたい！



<http://www.matsudo-sc.com/>

特集

# フードバンク

「フードバンク活動への支援」が盛り込まれました。

2019年5月に「食品ロスの削減の推進に関する法律（略称 食品ロス削減推進法）」が決議され10月から施行。



image photo

「フードバンク」聞いたことがありますか？  
食品製造業者、販売店や農家、家庭などから、まだ食べられるのに様々な理由で廃棄せざるを得ない食品を引き取って必要な家庭や施設などに届ける活動をしています。



2日間で集まった食料。お米も集まりました。

## 【フードドライブとは】

イベントやおまつり、職場などで、家庭で余っている食べ物を持ち寄り、それらをまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動です。

フードバンクでは普段から食料を受け付けていますが、「フードドライブ」と称して、ある一定期間や大勢の人が集まるような場で食品募集することで、多くの人にフードバンク活動を知ってもらおうという啓発活動の一環でもあります。身近な例では、2019年10月30・31日に松戸市役所において、市職員によるフードドライブが実施されました。

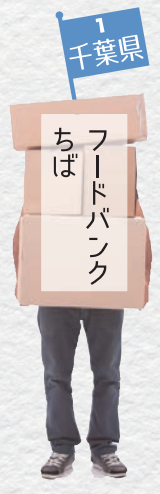
## 県内と松戸のフードバンク事情



フードバンクちば主催 フードドライブのちらし

企業組合労働協働事業団を運営母体とした「フードバンクちば」が2012年5月から活動をしています。当初は千葉市周辺だったのが、年々活動が広がって今では県内全域が対象になりました。県内各地の行政、民間の相談機関等と連携をすることから、緊急一時支援としての個人への食品提供は2018年度で2,500件を超えています。福祉施設はもちろん、子ども食堂へ届ける機会も増えました。またこの秋、台風の影響で被災地支援にフードバンクの食料が役に立ったとのこと。活動の大きな柱として、各市の社会福祉協議会、中核生活支援センター、他団体との連携による「フードドライブ」を年に3回実施していて、この秋で23回目となりました。

★ 県内全域で幅広く活動！







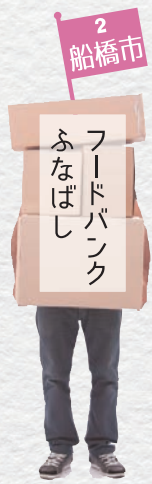
生協の店舗で実施しているフードドライブ  
 ※食品回収BOXは常設で、適宜回収している

☆「子育て家庭」が支援対象  
 ☆2人の女性が立ち上げ！



申請書をもとに、食べるお子さんの姿を想像しながら、家族構成や年齢に合った食料を選び、箱詰めしてします。

2018年5月、フードバンクふなばしが活動開始。船橋市を対象とした地域のフードバンクとして2人の女性が立ち上げました。支援対象が「子育て家庭」であることが特徴です。設立者の自宅で始めたところ協力者が現れ、今では、野菜の直売所の一画を借りて運営。主に行政との連携でつながった家庭から申し込みを受け、箱詰めして各家庭に届けています。



☆地域に根ざし、つながりの強い「子ども食堂」も受取り拠点に



納屋の片づけに、東葛5市から集まった子ども食堂関係者の皆さん

フードバンクちばの対象が県域に広がる一方で、需要の高まりと物流の合理性などの観点から、この東葛エリアでのフードバンクが待たれていました。そのなか、流山の子ども食堂運営者の一人が、自宅の納屋を倉庫として提供することを決意したことで、このフードバンクが誕生。今後の活動が注目されるところでです。

東葛地域の子ども食堂が40か所を超え、それぞれが地域資源として地域に根ざして、さらに子ども食堂同士もつながりがあることを背景として、子ども食堂に遊びに来る参加者に食料など支援を必要としている子どもや家庭がいるという「ニーズ」が出発点。子ども食堂のその先の家庭へきめ細かい支援ができるのではないか、という思いから立ち上げたそうです。

2019年11月設立。各子ども食堂ネットワークを物流ルートとして活用し、子ども食堂や地域の必要としている家庭に届けるしくみのフードバンクです。一般的には食料を箱詰めして希望者へ送る、というのが主流ですが、子ども食堂を受取り拠点として機能させ、直接手渡すのが特徴です。

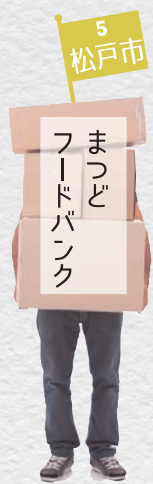


☆「まつどみらい会議」がきっかけで充足！



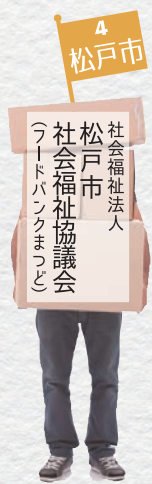
野菜回収かごとお裾分けの野菜

当センターで実施した、まつどみらい会議2017で「松戸にフードバンクを作ろう」をテーマにしたグループが多く賛同を得てプロジェクト発動。その後、話し合いを重ね、昨年から主力メンバーが加わり2019年2月「まつどフードバンク」が立ち上がりました。立ち上げた仲間の自宅（東松戸・新松戸・矢切）をそれぞれ拠点として、支援団体の手を経て必要な家庭や個人、子ども食堂等に届ける活動を始めています。特に東松戸の市民農園では、畑で余った野菜などを入れてもらうかごを設け、定期的に野菜や果物をいただいているそうです。



食品の寄付を受け付け生活困窮相談者の支援に活用している、とのこと。2018年度は、当社協において128件、約47kgの食品を相談者に提供しています。その他、フードバンクちばと連携した活動を行っています。

※県内の社会福祉協議会では、自治体ごとに地域性を生かしたフードバンク活動を独自に展開しています。



運営の課題

ほとんどのフードバンクは、倉庫の賃貸料、家庭への食品配送費、食品回収のための燃料費が主な出費で、なかでも配送費の経費負担割合は高いとのこと。一方収入は、会費・寄付・助成金に頼ることになり、活動の幅を広げるほど、継続運営が困難な状況になりがち。しかし、食品ロス削減と主に食のセーフティネットとしての役割は大きく、今後はどう継続できる仕組みにしていくのが、法律も制定された今、社会全体で考える時期が来ていると言えるのではないのでしょうか。





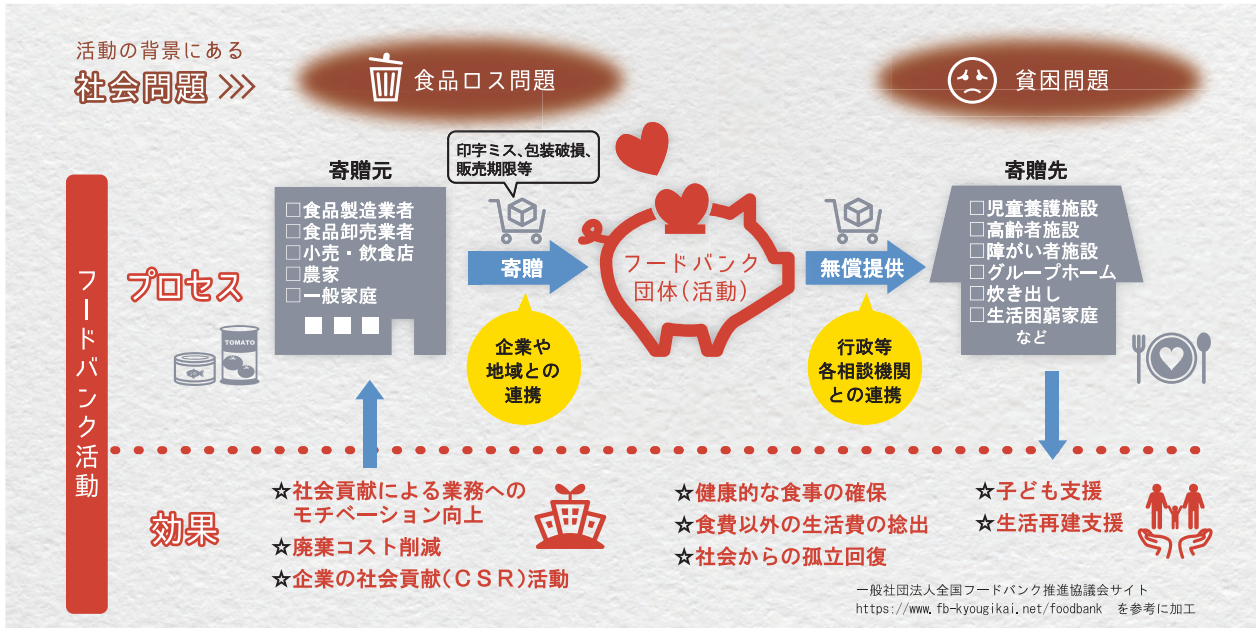


日本では、2000年代前半に、アメリカの手法を取り入れたセカンドハーベストジャパンとフードバンク関西が次々と立ち上がり、両団体とも現在認定NPO法人として活動を継続しています。今では全国に広がり、2017年1月に農林水産省が報告した数で77団体、2019年11月現在110団体となり、わずか2年で1.4倍となりました。(全国フードバンク推進協議会調査)

1960年代後半、アメリカアリゾナ州のホームレス支援者ジョン・バン・ヘンゲルが、スーパーの店長から捨てる予定の食品をもらい受け、炊き出し活動に利用し、そこから食品を銀行のように貯めておくシステムを思いついたのが最初とされています。ジョンさんはその後フードバンクコンサルタントとして、アメリカ各地をはじめ、カナダやヨーロッパにも広げ会社を1986年に設立。世界中のフードバンク活動を立ち上げる原動力となりました。

# フードバンクの活動の広がり

## ＊フードバンク活動の全体像



### 🗑️ 食品ロス問題

様々な理由で、大量の食品が廃棄せざるを得ない状況に陥っています。これが食品ロス問題です。

- 食品製造業者： 試作余剰品、表示印字ミス、箱の破損、缶のつぶれ、規格外など
- 食品小売店、スーパー： 期間限定商品、売れ残り、販売期限切れ、発注ミス等
- 防災備蓄品の入替： 大手企業等、大量の防災備蓄食品の入替で発生
- 農家、農協： 規格外品、天候による余剰品
- イベント用食品の余剰品など
- 家庭での余剰食品(いただきもの、買い過ぎたもの等)

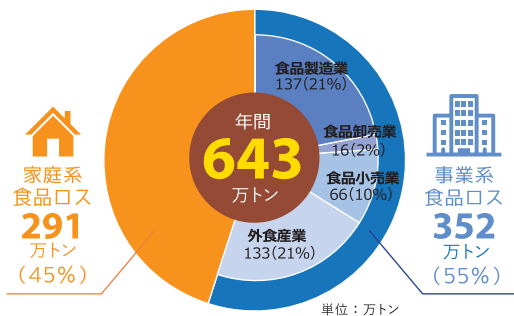
### 😞 貧困問題

一方、健康的な食生活を送ることが出来ていないかた、生活困窮者や福祉施設があります。

- 児童養護、母子家庭支援、シェルター、高齢者、障がい者など生活困窮者の自立(社会復帰)支援に関わる施設や団体
- 様々な背景で確実に食を確保することが困難な家庭や個人
- 食を通して支援する活動(居場所活動や子ども食堂等)

※食品ロス削減を優先にして、必要であれば上記に関わらず渡すこともあり、またそのフードバンクによって、渡す対象を限定するところもあります。

日本の年間「食品ロス」量



米生産量は **800万トン弱**なので、

毎年作ったお米の **3/4以上**の食品が捨てられている!

国民1人当たりの「食品ロス」量

1日 約 **139g**



※茶碗約1杯のご飯の量に相当

年間 約 **51kg**



※年間1人当たりの米の消費量(約54kg)に相当

本当は食べられるのに...



資料：総務省人口推計(2016年度)

[http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_loss/161227\\_4.html](http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/161227_4.html)  
 (2016農林水産省調査)から引用



# まちづくりキーパーソン養成講座 2019

参加者がそれぞれ実現したいことに合わせてカリキュラムを作成し、既に様々な活動をしている先輩メンターからアドバイスを受けながら、少数の参加者同士で学び合うこの講座。第5期となる2019年も、実りある出会いと学びの場となりました。

## 初回オープン講演会

『“お客様時代”のまちづくり・あそびが生まれる場のつくり方』

6月16日(日)に初回オープン講演会として、埼玉地域づくりに取り組んでいる西川さんをお呼びして開催しました。西川さんは学童の指導員での経験から、子どもを取り巻く環境がどんどん難しくなっている現状に気づき、現代に合わせた人のつながりづくりとして「おとうさんのヤキイモタイム」というキャンペーンを仕掛け、埼玉各地で「あそべる」場を開いています。講演の中で印象的だったのは「何かあったら…」という魔法の(やる気をなくす)言葉。何でも誰かに任せて、誰かのせいにしてしまいがちなお客様時代だからこそ、リスクを排除してルールにしてしまう社会の構造にも課題があるという話でした。



やさしい口調ながら、熱く語る西川さん。約40名が参加しました。



根っこは同じ想いを持つ共感できる人たちと出会えました。

自分が何をするのか、見直し考えなおすきっかけになりました。

## 参加者の声 (一部抜粋)

自分のしたいことがよりはっきりと整理できました。

最終回 プレゼン&交流会

今年もキラリと光る想いを持った卒業生が8名誕生しました！

第5期生となる今回。6月〜10月の3回にかけて連続講座を行い、それぞれが実現したいことや大切にしたい自分軸と向き合う時間となりました。最終回はプレゼンテーション&交流会ということで、一般の参加者も交えて想いを語る会でした。「認知症に備える街づくりをしたい」「人にも動物にも優しい街にしたい」「愛着を育む育児を広げたい」など、はじめはモヤモヤとしていたことが対話を経て明確になっていったようです。



これまでの講座卒業生も参加し、新しい出会いが生まれました。



まちづくりキーパーソン養成講座の詳細に関してはこちら。  
<http://www.matsudo-sc.com/works/mkp2019>

街のいろんな場面で一人の力は小さくても、それぞれの歩を集めれば私たちの街はもっと良い“まち”になっていくはず。あなたの力がまちにつながる。そんな一歩を共に見つけていきましょう！



〈チャレンジャー〉  
市民活動団体紹介

# Challenger



MIRAIのしるし



フェイスブック



お問合せ 代表 伊藤恵美

E-mail : info@mirainoshirushi.com

facebook : facebook.com/MIRAINoShirushi/

「自分の子どもにとって  
松戸はどんな環境なのだろう？」

代表の伊藤さんは、幼い頃から早く大人になって仕事にまい進したいと考える子どもも多かったそうで、アメリカの大学を卒業後は外資系のコンサルで働いた後、ブランド業界へ。結婚後、たまたま松戸に引っ越してくることにになり、今は6歳になる息子さんと3人で暮らしています。

地域活動なんて考えたこともなかったある時、同僚から勉強嫌いの娘さんが夏休みの海外ホームステイをきっかけに留学を目指して激変したことを聞き、子どもの成長にとって周りの環境や刺激がとても大切だと感じたとのこと。自分の子どもにとって松戸はどんな環境なのだろう？と疑問に感じて地域の学校や放課後事情、現代の子ども達の実態調査結果を調べたり、地元の小学生親子にインタビューを行いました。

地域のチカラを巻き込みながら  
子どものワクワクや夢を育む経験プログラムを  
企画・実行する「MIRAIのしるし」。

「松戸市に全く縁もなく、流れ着いた新住民。

仕事人間でした。」

そう語る代表の伊藤さんが

なぜ団体を立ち上げることになり、

今や町会の副会長に就くことになったのか？

活動の原点と今の想いを

お聞きしました。

子ども達が、たくさん  
接触・経験を通じて育つ社会にしたい。

1600時間 vs 1200時間。何の数字が分かりますか？前者は小学生（低学年）が放課後と長期休みに過ごす時間で、後者は学校で過ごす時間。学校も大切だけれど、共働きや片親家庭、一人っ子が増える中でどう放課後を過ごすのかに関心を持ち始めました。昨年の夏に「MIRAIのしるし」を立ち上げ、地域の資源を活かしたオシゴト体験ワークショップなどを開催。また今年に入ってから、町会役員として活動に参加したり、近隣町会の有志と組んで居場所づくりとしての「みんなのダイナー（食堂）」をスタートしています。

次世代型の町会の運営の仕組みにもチャレンジしていきたい！と語る伊藤さん。関心が近いかも？と思われる方がいたら是非コンタクトを取ってみてはいかがでしょうか。



2019年度松戸市民活動助成事業  
夏休み 小学生オシゴト体験 2日連続 プログラム

体験！メニュー開発  
～ホテルの朝食メニューを作る！～

日程：8/9(金) & 24(土)  
対象：小2～6年生（先着20名）  
場所：まつど市民活動サポートセンター

子どもから高齢者までが食事や歓談、遊び、体操等で集い、地域の居場所を月1回開いています。

100名分  
みんなのダイナー

会場とつながる、わたしの居場所。  
食べただけじゃない  
みんなの居場所

みんなのダイナー  
毎月第3土曜日開催  
10:00～14:30 OPEN  
ランチタイムは11:30～14:00  
@河原塚熊野神社  
第一町会公民館

継続決定!!  
事業エリア拡大のみんなの食堂は、2階のラウンジを皮切りに、施設利用が充実しました！居場所や役割のある、あなたな地域を創出してダイナーは続きます。

開催日	2019年	2020年
2019年	20/29	11/16
2020年	1/18	2/15

※2020年度は原簿3土曜日(注:12月度のみ変更開催)  
※2020年度は原簿3土曜日(注:12月度のみ変更開催)  
※2020年度は原簿3土曜日(注:12月度のみ変更開催)

小学生～高校生100円  
大人500円(中学生無料)

河原塚熊野神社  
みんなのダイナー

さくらまつり会場で小中学生を対象に  
全6問のYes/No投票型アンケートを実施。  
「Q1. 将来の夢・なりたいものはある？」



夏休みには、ただの調理実習ではない  
「自分達で考え、レシピも含めて創りあげる」  
ひと味違うオシゴト体験を企画。  
小学生チームが力を合わせ  
テーマやコンセプトを練り商品開発をする  
貴重な体験の場となりました。





スタッフコラム

# 進め、ケアの社会化

「地域包括ケア」——もう聞き飽きたという人もいれば全然知らないという人もいます。決して他人事ではない今後の地域での医療・介護のあり方について考えてみました。

## ケアと市民活動の関係

「地域包括ケア」とは、簡単に言えば住み慣れた地域で住み続ける為に、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に考えましょう。そして団塊世代が75歳となる2025年を目処に地域ごとに構築しましょうと定義されたものです。

言いたいことはわかるけど、イメージしにくくて理解するには時間がかかるかと常々思っています。日常の中に「ケア(人を気にかける)」の風景をどれだけ作っていくかが、個人的にはポイントだと感じます。医療や介護といった病院や施設でしか出会えなかった専門職と言われる人々も、日常の中で接点を持つ機会が増えてきているのはそういった側面もあると思いますし、市民活動も自分ごとまたは近い人の困りごとや可能性を切り開いていくものとして、ケアの要素は内包されています。

市民活動が身近になれば、ケアはより社会化され、ケアの社会化が進めば市民活動は今よりも日常的になっていくものだと思います。どちらが先でも望ましい未来ですよ。



まつど市民活動サポートセンター  
コーディネーター  
松村 大地

## 健康≠病気がないことなのか？

一方、地域包括ケアの定義の根底には「養生に努める必要性がある」と掲げられています。「養生」とは一体なんでしょうか？

「養生」とは支援をただ受けるだけでなく、自身も自発的に健康を管理する態度をもって健康的な生活を送ることと表現されます。忙しい日常で「まあいいか」で済ませたり、医学情報がありふれて何を信じていいかわからないような現代では、「養生」に努めることは容易ではないですよ。

さらに、少々古いデータですが『厚生労働白書(平成26年度)』(厚生労働省)に、自身が健康だと感じている割合73.7%、この健康感を判断する事項として「病気がないこと」が63.8%を占めています。また『国民生活基礎調査(平成28年度)』(厚生労働省)では、病気やけがで通院している割合は20代15.6%、30代20.6%と年齢ごとに上昇し、80代以上では73.0%にもなります。このデータから全ては判断できませんが、果たして健康≠病気がないことなのか。健康かを判断するのは一人一人の価値観なのではないかなと。そういった意味でも「養生」という文脈は、自身自身が自分自身の健康感を問い直すことなのかもしれません。

養生の意識が発展していくには、医療福祉などの専門職が日常の中でも接点を持ち動機付けしやすい環境になっていくことだったり、市民活動のように「自分ごと化」から始まるのではないかなと思います。



## サポセン 新規届出団体を 紹介します！

(2019年7月1日  
～10月31日  
届出順・敬称略)

- ★生きづらわーほりプロジェクト
- ★まんぶく広場
- ★健康マージャンバイククラブ柿の木
- ★まんぶく小屋
- ★にんじんクラブ
- ★馬橋西地区会
- ★千葉東葛ジョナサンの会(双極性障害・うつ病を考える会)
- ★常盤平文化連合会
- ★松戸あひる会
- ★馬橋スクエアダンスクラブ
- ★725 Dance School
- ★管打8重奏
- ★クラリネット8重奏
- ★矢切の耕地を未来につなげる会
- ★北小金ドリームプロジェクト
- ★まつど防犯ママくらぶ
- ★一般社団法人日本元気シニア総研
- ★柿の木台スケルマ
- ★日中亜細亜障害者福祉協会(双極性障害・うつ病の集い)
- ★NPO法人なかよし学園プロジェクト
- ★当事者会りあす



